

兵教育訓練

八月中旬第三方面軍司令部に於て各部隊長並に主任參謀の會同行はれたり。方面軍司令官の訓示に於て特に強調せられたる事項左の如し。

(一) 教育訓練の目標は九月末迄に概成を期すること。

(二) 對戰車戰鬪を重視し特に肉迫攻撃の要領を徹底せしむること。

2. 各部隊は一應動員完結せられたりと雖も、編制、裝備極めて劣弱にして又連日雜役に追はれ教育訓練の實施は極めて困難なりき。

小銃並に銃劍不足のため積五千本を注文したるも停戦時迄遂に間に合はざりき。

3. 八月七日より約一週間の豫定を以て奉天に於て幹部に對する築城教育開始せられたるも開戦と共に中止せられたり。

四 新京特別市防禦計畫

新京周邊地區を主陣地とし堅固に防禦陣地を占領する方針の下に

防禦の骨幹は軍自らその他は軍の指示に基き市公署指導の下に軍民
民一体となり陣地を構築する如く豫め研究せられたり。

但し開戦に至る迄具体的に工事に着手するに至らず。その原因の第
一は第三方面軍と師團との主陣地前線に關し意見の相異ありて第一
四八師團長は新京地區の地形と師團獨力なる實情に鑑み市街地周邊
近くに陣地前線を設くるの要を力説せるも方面軍に於ては前線を更
に前方に出すを要すとの意見にて師團の防禦方針不確定なりしこと
なり。

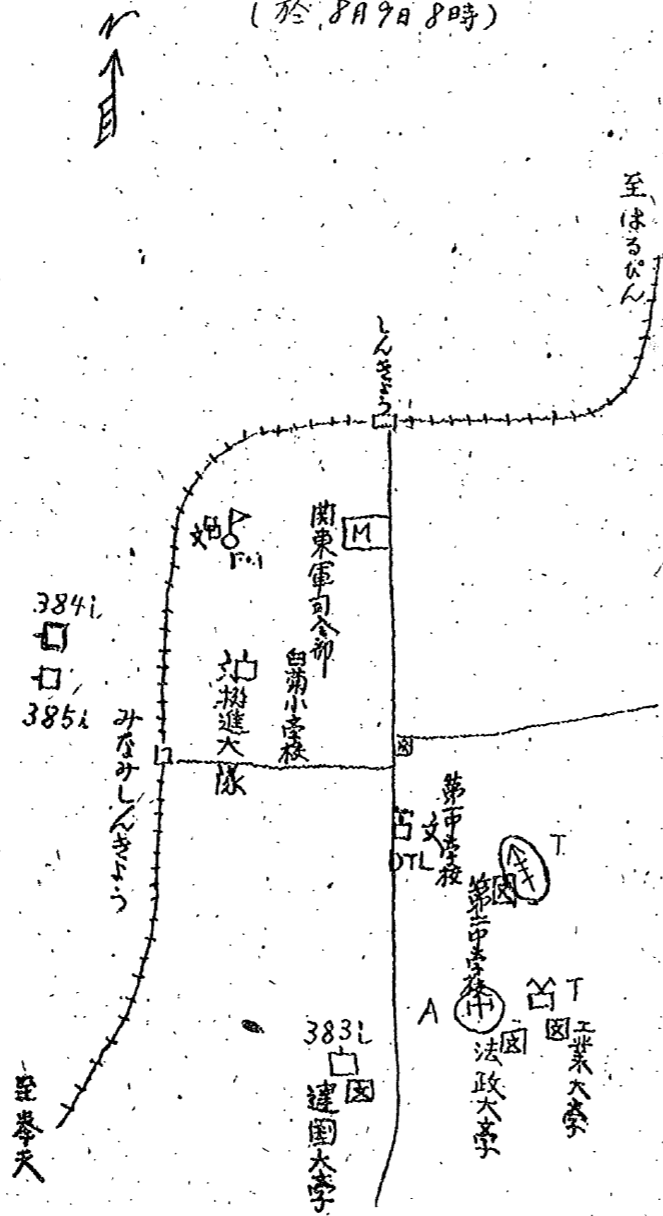
その爲二は戦局の推移極めて重大なるに拘らず市民一々の空氣は極
めて低調にして机上計畫に日子を徒費し些細の準備事項に關しても
熱意乏しきもの勢からさりしことなり。

第三 開戦時に於ける状況

一 師團司令部

師團長及參謀長は新京師團司令部に在り。作戰主任參謀並に參謀部

開戦時に於ける師團の位置要圖
(於 8月9日 8時)



附大尉一名は奉天第三方面軍司令部との連絡並に築城教育参加の爲
八月六日以降出張不在なり。後方主任参謀は師團司令部に着任直後
なり。
二當時に於ける熱下各部隊の配置要圖左の如し

0061

師團の指揮下に在りたる日滿兩軍部隊左の如し

1. 新京滿軍第四高射砲隊（一大隊欠）は防空の爲從來第一〇一警備司令官（中部防衛司令官）の指揮下に屬せられありしが第一四八師團編成せられ師團長が第一〇一警備司令官の任務を繼承せるに伴ひ師團の指揮下に入りたり。

2. 豐滿ダム（吉林上流松花江發電所）防空の爲配置せられありし滿軍第四高射砲隊の一大隊及日本軍野戰機關砲工中隊及奉天より公主嶺に移駐せる滿洲航空會社^{（株）}の防空に任しありたる滿軍高射砲一箇中隊は何れも師團長の指揮下に在り。

第三、作戰經過の概要

1. 八月九日〇二〇〇前後日蘇開戦を知り師團長は警戒警戒報を中部全地區に對し發令、間もなく敵機飛來せしも燈火管制徹底し市内に一發爆彈を投下せしも人畜に被害なし。

2. 次いで各部隊に對し豫め計畫せる所に從ひ陣地占領を命ず。下筆

せる命令の要旨左の如し。

四五

第一四八師團命令の要旨

八、九、〇、八〇〇
於 師團司令部

一、蘇軍は八月九日未明滿蘇國境全線に亘り滿内に向ひ進攻を開始せり

本朝〇三〇〇新京は少數敵機の空襲を受けたるも被害なし

二、師團は全刀を以て新京特別市周邊地區を堅固に占領し進攻する敵を撃破せんとす在京滿軍諸部隊を併せ指揮す

三、歩兵第三八三聯隊は西地區隊となり直接新京西側地區に陣地を占領し該方面より進攻する敵を撃破すへし

四、歩兵第三八四聯隊は北地區隊となり直接新京北側前線附近に陣地を占領し該方面より進攻する敵を撃破すへし

五、歩兵第三八五聯隊は中地區隊となり市公署附近一帶を陣地の複郭たらしむる如く陣地を占領し第一線を濾過し來る敵を撃破すへし

0063

0064

- 六、野砲兵第一四八聯隊長は工兵隊の一部を併せ指揮し南地區隊となり南方より進攻する敵を撃破すへし火砲は主として北方及び西方より突進する敵戦車に對し適時射撃し得る如く準備すへし
- 七、滿軍（軍官學校、禁衛隊）は東地區隊となり市街東側附近に陣地を占領し該方面より進攻する敵を撃破すへし
- 八、各地區隊の戦闘地域の境界は別に指示す
- 九、挺進大隊は主力を以て農安方向に一部を以て伏隆泉方向に挺進し敵戦車を奇襲すへし特に有力なる一部を以て和順昌附近（新京西北方約三五軒）伊通河湖沼地帯の氾濫を實施すへし之か爲特に當該副縣長並に街長を指導すへし糧米約二週分を携行すへし、出發時機は別命す
- 十、工兵隊（一〇〇欠）は主として北、西、中地區隊の重點支揚點構築並に主要障礙物構築に協力すへし
- 十一、師團團通信隊は速に器材を蒐集整備し師團司令部と各地區隊

内の電話網^を構成すへし。

四七

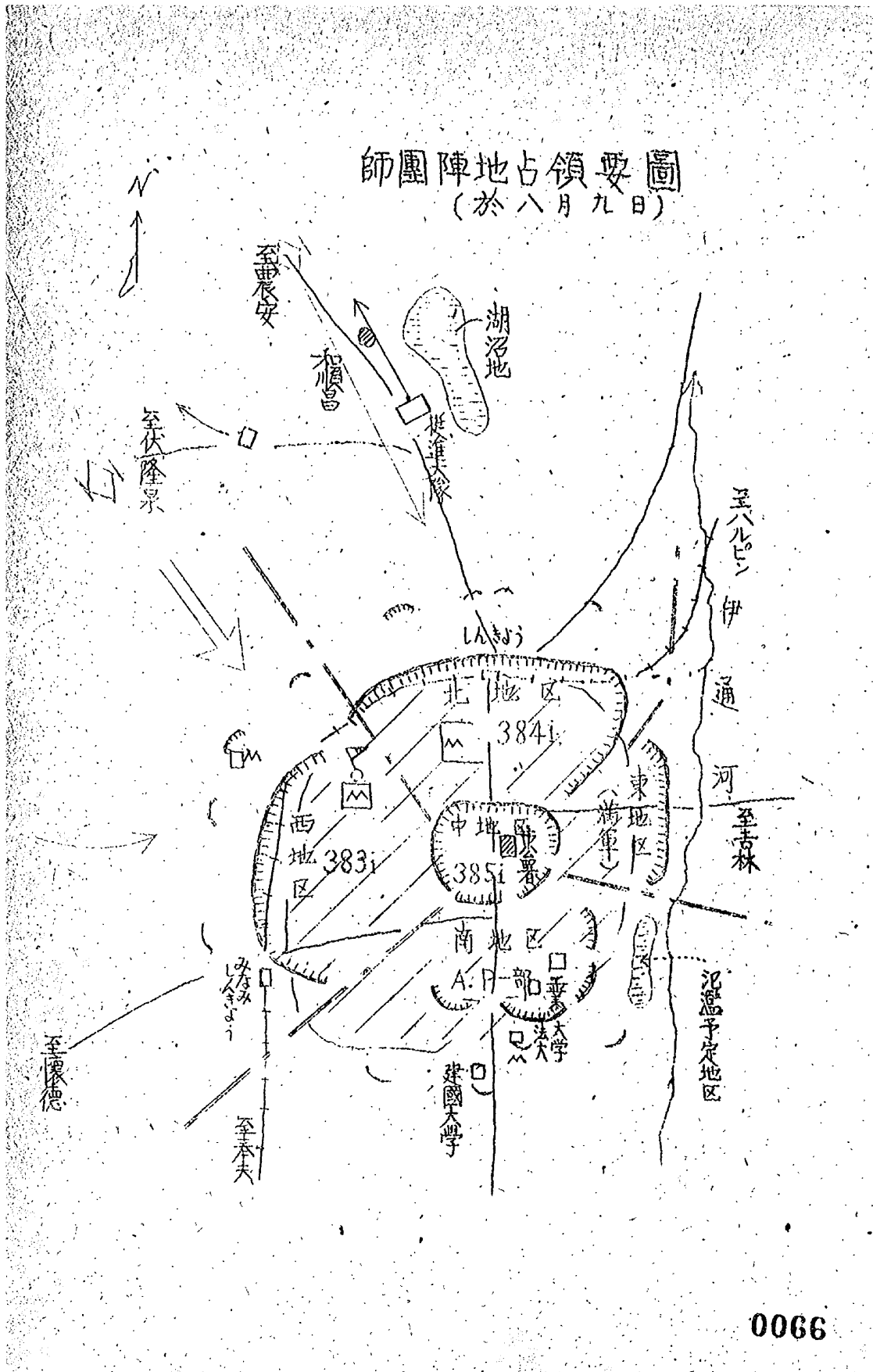
主、輜重兵第一四八聯隊は先づ北、西、地區隊次て中、南地區隊に對する彈藥及糧秣の補給に任すべし。

師團長 中將 末 光 元 廣

右命令に基く陣地配備左記要圖^をの如し

0065

師團陣地占領要圖
(於八月九日)



3. 丸岡參謀は八月七日より第三方面軍司令部に出張中なりしも開戦

と共に打合せ並に幹部に對する築城教育中止となるや歸任の途に就き、途中九日一五、〇〇頃四平に於て列車停車中電報により在梅河口第三十軍司令部に命令受領に赴くへき命を受け翌十日〇七〇〇四平發梅河口に到れり。當時第三十軍司令部は梅河口驛前梅ノ屋ホテルに在り。

十日夕左記要旨の第三十軍命令を受領す。

第三方面軍正面敵機甲部隊は敷縦隊となり國境を突破して東進中にして早ければ十三日頃連京線沿線地區に進出すへし

東部國境に於ては九日己に國境陣地を突破せられ敵は綏陽、琿春に進出す。一部の敵機甲部隊は牡丹江に向ひ突進中其の他全面的に敵は國境を突破侵入せるも通信杜絶しあるため狀況不明なり

四軍は新京及四平を確保し侵攻する敵を撃破せんとす

③第一四八師團は新京特別市を確保し侵攻する敵を撃破すへし
 ④第三九師團は四平東側高地を確保し侵攻する敵を撃破すへし
 ⑤第一二五師團は梅河口周辺地區に前進し爾後の行動を準備すへし

以下省略

④十一月一日早朝丸岡參謀は軍參謀吉川大佐と共に梅河口より新京に向ふ。途中滿鐵線は新京地區疎開者の全力輸送中にして又新京驛構内は列車輻輳の爲新京迄前進し得ず已むなく孟家屯に下車し十一月二日、〇〇師團司令部に歸任せり。
 十一月一日朝東軍測量隊山口大佐以下三〇〇名（軍屬を含む）を師團に配屬せらる。
 ⑤十二日新京附近召集者約三、〇〇〇名を新に師團に増加せられたるも兵器、被服不足なるのみならず地方色極めて濃厚にして之れが掌握は極めて困難なり。同日朝第三十軍司令官飯田中將並參謀

0068

長以下新京に到着、觀團司令部を關東軍總司令部廳舎に開設せり
第三十軍は當時決戦の目的を以て全力を新京に集結せしむる意向
なりしも平后之れを變更し新京、四平を確保し來攻する敵を擊破
するに決せられたり。

6. 師團は軍の新なる企圖に基き八月十三日朝左の要旨の陣地變更に
關する命令を下達せり

一 敵の前進速度は逐次低調となり新京特別市正面に現出するは早
くも十五日頃なるへし軍は主力を以て新京特別市を確保し來攻
する敵を擊破す

二 師團は新京地區兵力の增強に伴ひ速に配備を變更強化し來攻す
る敵を擊破せんとす

新に師團に左記部隊を配屬せしめらる

戦車第三十五聯隊

新京高射砲隊

高射砲第二十六聯隊

在新京補給諸廠

陸軍病院の殘留者

滿軍禁衛隊、軍官學校生徒隊

新京南側地區は新に獨立混成第一三三旅團陣地を占領する筈

三、挺進大隊は襲に示せる任務を敢行すへし出發は本夕刻とす

四、西地區隊は前任務を續行すへし

五、中地區隊は爾今北地區隊となり新京北側地區を占領すへし

六、北地區隊は爾今中地區隊とす

七、東地區隊は北（中）地區隊の陣地變更に伴ひ所要の陣地を修正

すへし

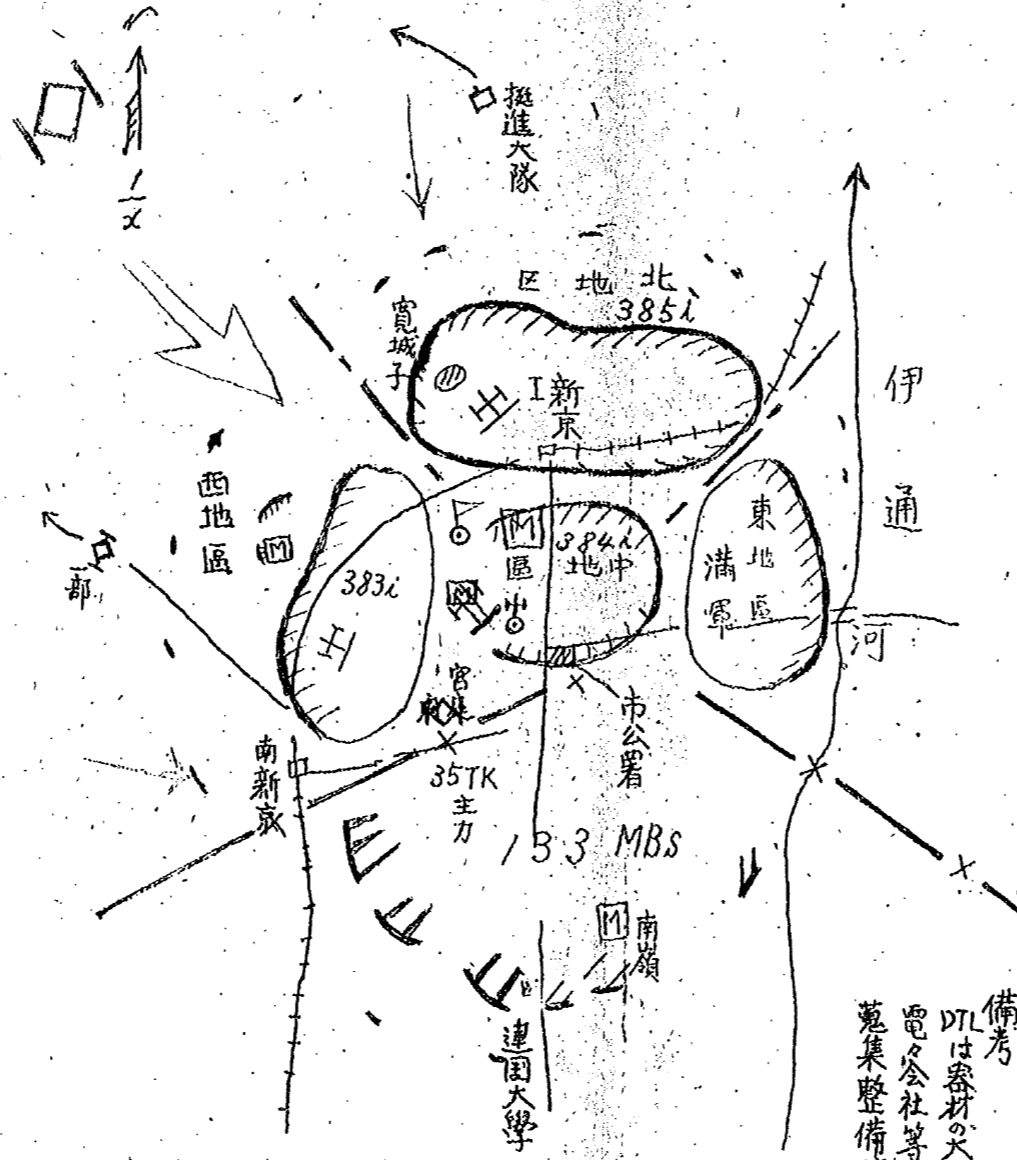
八、各地區隊の戰闘地域の境界は別命す

九、野砲兵第一四八聯隊は市街地區内西北地區に陣地を占領し主刀

を以て西地區隊に一部を以て北地區隊の戰闘に協刀すへし

師團配備変更要圖

(於八月十三日午前)



備考
D1は器材の大部なく
電々会社等より
蒐集整備續行中

四五
四三

特に適時對戰車戰術に任すべし
 一〇戰車第三十五聯隊は綠園附近に待機對戰車戰術を準備すへし。
 特に一部を以て懷徳及農安方面の敵機甲部隊の狀況を偵察すへし
 一、其の他省略す

0071

八月十二日午後一大¹⁰⁷遼陽下士官候補者隊一原隊復歸至難のた

め新京に下車し軍より師團に配屬すべき旨命あり同隊は一時控置
せり

8. 師團は陣地の強化を圖ると共に一部を以て裝備の充實を圖るため
兵器、被服の蒐集に努む。之れが爲陣地構築に勵せしこと甚大なり。
又十二日夜白城子部隊との電話連絡の結果左記情況を知るを得たり

左記

第一〇七師團は五又溝附近に於て優勢なる敵と交戦中にして敵は
逐次西北方より退路を寸断しつつあり
第一一七師團は後退中なるも白城子守備部隊は依然健在陣地を確
保しあり

又十三日夕滿洲國政府側より得たる情報に依れば日本内地に於ては

停戦交渉を進めざる模様なりしも師團は依然任務を履行す

0072

10. 中支方面より轉進せる獨立工兵第四〇大隊の一、中隊十三日新京^{五四}に到着し師團に配屬せられしを以て師團は該中隊を工兵第一四八聯隊に配屬せり。

(右中隊は大隊主力と共に奉天に集結せらるべき部隊なりしも誤りて新京へ輸送せられたるものなり)

11. 十四日午前第三十軍命令により停戦命令を下達せしも間もなく取消しの命あり依然作戦行動を行ふべき命令を下達す。然れとも一報情勢は遂に志氣揚らず工事等に熱意なし。

十四日午後滿軍方面に背叛の氣運濃厚となり監視を嚴にす。伊通河方面に於て突如日系軍官滿系に射殺せらるゝの報あり。

12. 十五日歩兵第三八四聯隊、歩兵第三八五聯隊の各々半箇小隊は一部背叛せる滿軍鎮壓に向ひ彼我の間に小戦を惹起し一部滿軍の武装解除を實施せしも我に戦死一二、負傷十數名を出すに至れり。

關東軍參謀入江少佐、第三十軍參謀山岸少佐隨軍の外側に搭乗狀

況視察のため満軍陣地内前進中突如屋上より狙撃せられ戦死す。
市街戦は緩慢なりしも繼續せられ十六日參謀長坂元大佐満軍との
折衝により満軍は伊通河東側地區に集結することとなり銃聲は全
く止みたり。

第四 終戦後に於ける状況

1. 十五日新京應召者約三、〇〇〇名を召集解除す。

2. 十六日第一一七師團の一梯團（約五、〇〇〇名）の一列車新京着
曲團に配屬せらる

3. 第三十軍司令部、獨立混成第一三三旅團及戰車第三十五聯隊は十
八日朝公主嶺に移動を開始す

4. 十八日在新京各部隊は蘇軍進駐前に終戦後の處置（機密書類の焼
却等）を速に完了すへきを要に迫られ終日之れが實施に忙殺せらる。

又特に遺憾なりしは臨時配屬せられたる後方部隊（在新京補給諸
廠等）は師團の指揮下に在るに拘らず獨斷且過早に燃料、兵器、

被服等の焼却を実施せり。

5. 十九日夜敵機甲部隊の先頭連京線に達し范家屯に於て公主嶺への
轉進部隊と交戦するに至り第三十九師團の歩兵一箇聯隊の主力は
懷徳方面に拉致せらる。

白城子方面より逐次小部隊新京に到着師團に收容せらる。

北方方面より邦人避難民の列車逐次到着し爲に新京市内は騒然た
り。加ふるに十五日終戦以來滿鮮系の邦人住宅侵入激増し治安漸
く亂る。

6. 十九日正午頃蘇軍軍使空路新京着師團司令部に入る。蘇側は在京
部隊の全員武装解除を命じたるも折衝の結果居留民保護、治安維
持の目的を以て約一、〇〇〇名（小銃のみ）並に師團司令部のみ
内に残留し諸設の折衝、連絡並に治安維持に任することゝなれり

7. 二十二日頃蘇軍指令により前項治安維持の爲の兵力は撤收するこ
とゝなり師團主力の集結地區（新京南嶺附近）に集結し爾後は日

憲兵を市街要點に配備し治安維持に任せしめられたり。日滿警戒責任境界は概ね新、舊兩市街道の線となれり。特に不穩行動の中心は禁衛隊、憲兵團の共產系分子たり。軍官學校生徒隊は日滿生徒間の友情概ね良好にして終戦後圓滿に解散せり。又新京周邊地區の日本人開拓團（約十七箇團）は十六日乃至十八日の間何れも滿人の掠奪に遭ひ死傷者續出し日本軍の救援を求むるに至り師團は一部を派遣して之れを救出に任せしめたり。

8. 八月下旬蘇軍の命により師團司令部及治安維持に任しありし憲兵は凡て師團主力の位置に集結せり。

師團司令部は師團長以下滿洲映畫會社（新京南端附近）に位置せり。

南嶽附近に集結せる在新京部隊人員は約二〇、〇〇〇人にして此れが統制を第一四八師團長（駐屯地司令官）に命せらる。爾後在新京部隊は九月月上旬より逐次作業大隊に編成せられ入蘇すること

となれり。

五八

第五、作業大隊の状況（九月一日以降）

九月一日第一、第二作業大隊の編成（各大隊一、〇〇〇名宛）を指令せらる。

右大隊の一箇大隊は二日早朝出發近傍の道路修理を實施したる後再び歸還し假收容所に待機せしめられたるを以て、爾後の作業大隊編成も概ね不安なく編成せられたるも、第三大隊編成以降入蘇輸送を慮れ將兵一役は尠からず動搖し逃亡者累増するに至れり。

2 新京に於て編成せられたる作業大隊数は十五箇大隊（一、〇〇〇一、一五、〇〇〇名）宛なり（内二箇大隊は居留民部隊）。又別に將校二箇大隊を編成す。十一月十二日新京出發の將校大隊を最後とし作業大隊の入蘇輸送は終了せり。

當時（十一月十二日）新京假收容所には保健中隊（二箇中隊）と滿洲國日系官吏（高等官のみ）の一部隊残留しありたり。

0077